

## I 体育科 研究テーマ

自他の課題を解決する中で、運動との多様な関わり方のよさを実感する子どもを育む学び

## II 研究の重点

運動を通して身に付けたことを仲間に伝えるための支援を工夫をする。

## III 2年次の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 自他の十分な現状把握からはじまる「学びのものさし」の効果的な活用

2年次の研究としては、動きのこつを探していくことを通して子ども自身が練習の仕方や場の設定を工夫していくことに焦点を当てた。子どもたちはこつを探し、試していくことで課題を解決できる経験を重ねて、その有効性を実感できた。さらに、そのこつを有効に活用していくために自他の現在の状況を把握することは不可欠となる。その現状把握が子どもたちにとって必要な「学びのものさし（こつ）」に気付く手立てとなり、さらに自身の課題追究のために最適なこつを選択し、課題解決に生かしていく姿が見られた。現状把握により、各自の課題と見通しを明確にもつことができ、さらに練習が意味あるものとなり、仲間との伝え合う活動は洗練されたものになった。

タイムシフトカメラや撮影した動画は客観的な自分たちの姿勢や動きを捉えることに効果的だった。自分たちの動きや技の様子を知ること、目の前の仲間の技や動きがどのような状態なのかの把握と分析を行うことが可能となった。同時に仲間が出来映えを高めるために効果的であろう練習方法のアドバイスやこつ・動きのアドバイスにつながり、仲間との伝え合いに生かされた。

#### (2) 役割を明確にした仲間と関わり合う学習形態

自分の技の練習だけでなく、友達の技を見る、技を支える、ことが練習方法のこつに結び付くように3人グループを形成して、練習に取り組む役、補助をする役、技の取り組みがどうだったか評価する役に分けて活動に当たった。そして、撮影の時間を限定的にしたことで、自分が練習する場面と仲間のために使う場面を自覚できていたと考えられる。

やることに精一杯である自分自身にとっても動きを冷静に視聴しているので仲間のアドバイスを素直に聞き入れ、最後は感謝するにいたる。また、授業内で視聴し判断しきれない部分を他の時間を用いることで、動く時間と伝え合う時間を省くことなく授業構築することができた。

役割を分担し、こつを見付け伝え合うことを通して、自ら課題を考え解決のために活動し、運動に積極的に取り組むことは、仲間の取組を認めようとする態度を醸成し、「する」、「知る」、「見る」、および「応援する」といった運動との多様な関わり方のよさを実感する子どもの姿につながった。

### 2 課題 こつの捉え直しまで向かう子どもの姿を引き出すための単元、授業構想づくり

仲間の技を見てアドバイスを与えることは結果的には自分の技の出来映えを高めることにつながることに気付かせ、もっと「見る」ことを意識化したい。自分の動きや技を行うことに精一杯な子どもには特に意識させたい。そのためにも、その技のゴールとなる技の完成形を全体で共有することの必要性を感じた。自分がどうなるべきなのか、そのために何をすべきなのか等の課題や練習の場の設定がぼやけてしまうことがないように単元構成を模索したい。